

よしの が りれきし こうえん おおが 吉野ヶ里歴史公園の大賀ハス

1 大賀ハスについて

植物学者の大賀一郎博士は、1951年、東京大学検見川厚生農場において、地元の小・中学生や一般市民などのボランティアの協力を得て発掘作業を行いました。そして、計3粒のハスの実が発掘され、1952年、大賀博士はそのハスの実を発芽させることに成功しました。また、大賀博士はシカゴ大学に、放射性炭素年代測定を依頼しました。その結果、ハスの実は、ハスの実の上方層で発掘された丸木舟の木片から、2000年前の弥生時代以前のものであると推定されました。そして、研究者の大賀博士の名をとり、「大賀ハス」と呼ばれるようになりました。現在、「大賀ハス」は、国内外で根分けされ、友好親善のシンボルとして大事に育てられています。

2 吉野ヶ里歴史公園の大賀ハスについて

吉野ヶ里歴史公園は、約2300年前から1700年前まで、600年間続いた弥生時代を代表する遺跡を復元した公園です。その吉野ヶ里の地に、ぜひ大賀ハスを咲かせたいということで、2015年度に熊本国府高等学校に依頼し、ハスの地下茎を譲り受け、栽培しています。

吉野ヶ里歴史公園にある「大賀ハス」は、花が咲き終わり、実をつける前に、種子を切除し、現在のハスや植物などと交配した種子を発芽させないようにして、ハスの純粋さを保っています。



吉野ヶ里歴史公園の「大賀ハス」

2 理科学習の中で

(1) 単元 第5学年「植物の発芽」

(2) 活用方法

この単元は、インゲンマメやトウモロコシなどを使って、種子の発芽には、水、空気及び温度が関係していることについて学習します。その学習の発展的な内容として、「大賀ハス」を取り上げてみてはどうでしょうか。2000年前のハスの実の種子であっても条件を整えば発芽するということを学ぶことができますと考えます。また、児童が住む市内にある公共施設で「大賀ハス」を観察できることは、児童にとって、身近にあって、自然に興味・関心をもたせることのできる教材であると考えます。

3 参考資料

- ・「よみがえる古代ハス 大賀ハス」(パンフレット)

吉野ヶ里公園管理センター 問い合わせ先 TEL 0952-55-9333 FAX 0952-55-9330